

製品名: CUL-4B ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09535**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	110kDa

抗原情報

遺伝子名	CUL4B
別名	CUL4B; KIAA0695; Cullin-4B; CUL-4B
遺伝子 ID	8450.0
SwissProt ID	Q13620
免疫原	抗血清はヒト CUL4B の内部領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 711-760

背景

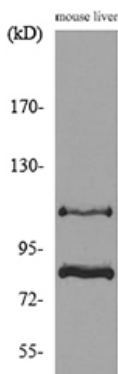
この遺伝子は Cullin ファミリーのメンバーです。コードされているタンパク質は E3 コビキチンリガーゼとして機能する複合体を形成

し、細胞内で特定のタンパク質基質のポリユビキチン化を触媒します。このタンパク質はリングフィンガータンパク質と相互作用し、クロマチンライセンシング、DNA複製因子1、サイクリンEなど、DNA複製を制御する複数の因子のタンパク質分解に必須です。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションがみつかっています。[RefSeq提供、2008年7月]、疾患：CUL4Bの欠陥は、カベサスX連鎖性精神遅滞症候群（MRXC）[MIM:300354]の原因です。MRXCは、低身長、小精巣、筋萎縮、振戦を伴うX連鎖性精神遅滞とも呼ばれます。MRXC患者は、思春期遅発、性腺機能低下症、相対的大頭症、中等度の低身長、中心性肥満、突発的な攻撃性爆発、微細意図振戦、凹足、足指の異常を示す。疾患：CUL4B遺伝子の欠陥は、X連鎖性精神遅滞・低緊張性顔貌症候群2型（MRXHF2）[MIM:300639]の原因であり、スミス・ファインマン・マイヤーズ症候群2型またはSFM2とも呼ばれる。MRXHF2の特徴的な症状は、相対的小頭症、低身長、眼間開大、巨口、口唇開放、言語障害、小顎症、母指と小指の短縮と内転、10歳未満での筋緊張低下、そしてその後の筋緊張亢進、落ち着きのなさ、発作である。IQは40から57の範囲でした。絶対保因者である女性は、かなり大きな手と深い掌皺、および指の皺と裂傷を除けば、臨床的には正常でした。機能:標的タンパク質のユビキチン化とそれに続くプロテアソーム分解を媒介する、複数のCullin-RINGベースのE3ユビキチン-タンパク質リガーゼ複合体の中核成分。足場タンパク質として、基質およびユビキチン結合酵素の配置を介して触媒に寄与する可能性があります。E3ユビキチン-タンパク質リガーゼ複合体の機能的特異性は、可変基質認識サブユニットに依存します。DC4BX（DTL）は、放射線誘発DNA損傷への応答およびDNA複製中のCDT1のPCNA依存性ポリユビキチン化に役割を果たします。紫外線への応答におけるヒストンH3およびヒストンH4のユビキチン化に必要であり、その後のDNA修復に重要である可能性があります。経路:タンパク質修飾;タンパク質のユビキチン化。PTM:Neddy化。COP9シグナロソーム（CSN）複合体との相互作用により脱Neddy化される。類似性:Cullinファミリーに属する。サブユニット:DDB1、CUL4AまたはCUL4B、RBX1、およびDCAF（Ddb1およびCul4関連因子）またはCDW（CUL4-DDB1関連WD40リピート）タンパク質として記述されるタンパク質ファミリーに属すると思われる可変基質認識成分から形成されると思われる、複数のDCX（DDB1-CUL4-X-box）E3ユビキチン-タンパク質リガーゼ複合体の構成要素。推定基質認識成分DTLとのDCX（DTL）複合体の構成要素。推定基質認識成分DDB2とのDCX（DDB2）複合体の構成要素。RBX1およびTIP120A/CAND1との複合体の一部。RBX1およびTIP120A/CAND1と相互作用する。TMEM113と相互作用する。GRWD1、SMU1、TLE2、TLE3、VPRBP、DDA1、IQWD1、C2orf37、DDB2、WDR23、WDR42Aと相互作用する。WDR26、WDR51B、SNRNP40、WDR61、WDR76、WDR5と相互作用する可能性がある。

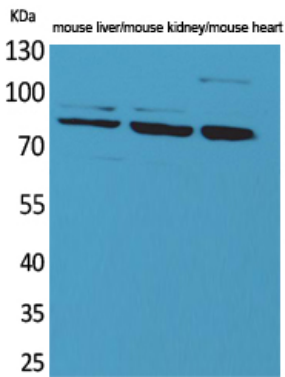
研究分野

ヌクレオチド除去修復、ユビキチンを介したタンパク質分解、

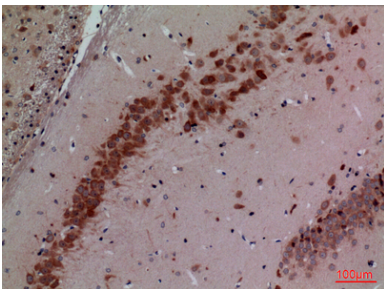
画像データ



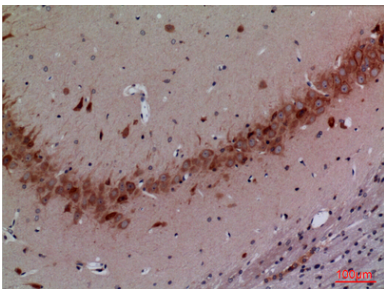
CUL4B抗体を使用したマウス肝細胞溶解液のウェスタンブロット分析。



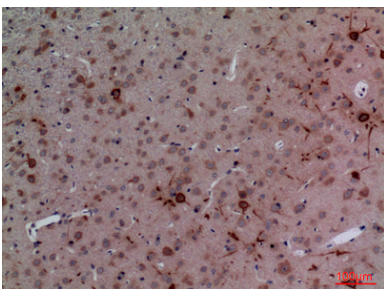
CUL-4B ポリクローナル抗体を用いたマウス肝臓、マウス腎臓、マウス心臓細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈されました。



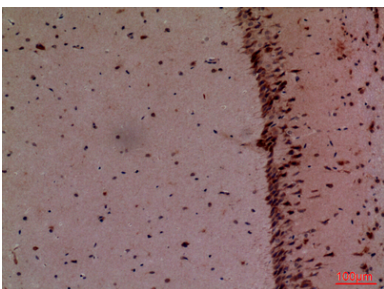
パラフィン包埋ラット脳の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



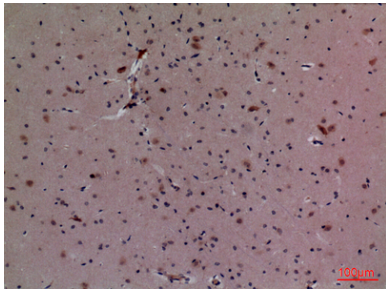
パラフィン包埋ラット脳の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋ラット脳の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋マウス脳の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋マウス脳の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された